



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

詩編19の冒頭の言葉「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す」の「物語り」と訳されている言葉は、ヘブライ語で「サーファール」というそうだ。それは「語る」「書き記す」という意味に加え、「数える」という意味を持つ言葉である。「光あれ」から始まり、次々と神の創造の業が進められる創世記の物語が、神の栄光を数え上げる営みであるように、私たち一人ひとりの人生の物語もまた、数え上げられるべきものなのだ。

「望みも消えゆくまでに世の嵐に悩むとき 数えてみよ主の恵み 汝が心は安きを得ん 数えよ主の恵み 数えよ主の恵み 数えよ」(新聖歌172)。この賛美こそ「サーファール」、すなわち数え上げられる私たちの物語そのものなのだ。

それまでバラバラであった出来事を数え上げ、もう一つの物語として再構成していく営み。私が沖繩の精神科デイケアで長年続けていた詩作活動も、まさにその一つである。20年前に初めて編んだ彼らの詩集の題を『私に似た花それはきっといい花だろう』にした。それは「自分を花に例えるな

瞑想

主の戒めは清らかで、目に光を与える。

(詩編19:9)

主幹牧師 榎本 恵

ある。人生を省みながら、なお数え上げられてくるもの一つの物語があることを、この詩は静かに示しているのではないだろうか。「主の戒めは清らかで、目に光を与える。」ここで言われる「目に光を与える」とは、単なる視力の回復ではない。それまで見えていなかったものが、数え直される。消し去らたかと思っていた過去が、誰かを慰める言葉へと変えられていく。意味のないと思っていた日々が、神のまなざしの中で確かに数えられていたことに気づかされていく。

友よ、主の戒めは、私たちを縛る鎖ではない。それは、私たちを照らし、見えなかったものを見えるようにする光である。律法は人を束縛するためではなく、むしろ真実に生きる自由へと導くために与えられているのだから。私たちはもう一度、主の恵みを、一つ一つ数え上げよう。そこに、確かな光があるのだから。

50周年コンサートの 舞台裏に起きた神の奇跡①

榎戸 真弓



ステージ左で司会される榎戸姉。ハキハキと力強く、そして、温かく…。隣は台湾・張家勝長老。

昨年開催されたアシラムセンター50周年記念コンサート。その華やかなステージは、多くの参加者の記憶に深く刻まれました。今、コンサートの舞台裏で起こった出来事を振り返る時、そこには人の力だけでは成し得ない、神様の深い愛の御手と采配があったとしか言いようがありません。一人の奉仕

者として関わったことを通して、信仰の神秘を分かち合いたいと思います。

多様な奉仕者が集められた御心
「アシラム・センター50周年記念コンサート」は、「第20回国際正義平和アシラム」と同時開催されました。プログラムは、クラシックバレエ、弦楽三重奏、台湾エンツォ民教会のダンスや歌、クワイアーチャイム、講演会、ゴスペルソングと多岐にわたりました。それぞれの賜物を用いて神様を賛美するという企画自体が、既に神様の壮大な御心の現れでした。私はアシラムの参加者として、またコン

サートの裏方として、この計画の一部に組み込まれていきました。

共有された絶望と焦燥、人間の限界

当初、私が担う役割は司会だけでした。原稿を読むだけと気楽に考えていました。私は普段、イベントの企画、制作、文化会館などでは主に舞台監督の仕事をしています。コンサート開催まで2週間を切った11月11日の夜、出演者とスタッフ、事務局とで初めてのミーティングがZoomで行われました。そこで私たちは、決定的な現実に向き合ったのでした。舞台運営に必要な舞台監督の不在、台本制作、必要機材のリストや舞台図面はない、演目ごと技術スタッフとの打ち合わせ、リハーサルを含む準備のタイムスケジュール、舞台制作の

基本事項が手つかずの状態だったのです。コンサートは出演者

だけいなければならないものではなく、全体像を表現し、それを共有する台本、各プログラムの詳細な内容や機材、出演者の動きを表す図面、音響機材や照明機材を操作する専門の技術者と主演者がそれぞれの情報を共有し、舞台監督の指示のもとにプログラムは進行していくのです。もちろんリハーサルも必要です。

このままではコンサートが成り立たないことは明確でした。この危機的状況は、私だ

けでなく、その場にいた全員を不安のどん底に突き落としました。「いったい誰がこれをまとめるのか？」という言葉にならない問いが、画面越しの全員の表情に現れ、誰もが絶望感と焦燥に苛まれたのです。皆はまるで荒野に迷う子羊、あるいは親を失ったみなしのように狼狽しました。しかし、この人間の限界と無力感の共有こそ、神様が介入してくださるためのスペースだったのです。

(つづく)

(静岡草深教会・静岡聖書教室主催・早天祈祷会の友)

第43回台湾愛修會に参加して

横山 大輔

3月2日〜4日に行われた台湾アシラムに参加させていただき

ました。日本から、そして台湾中から約80人が集まって、ローマへの手紙12〜15章を黙想



し、分かち合いました。2日目の夜は台湾原住民の賛美、ダンス、笛の演奏、また私たちも3曲賛美して、言語を超えて、文化を超え

て、イエス様への賛美が祭りのようになり、喜びが溢れました。ローマ人への手紙12章1節にあるように、ただ聖書の言葉を聞くだけでなく、受動的

でもなく、たとえ疲れていても自身自身が持っているものを、生きた供え物として自主的に捧げていく時に、生ける水の川が内か



→ライオンロックによる賛美のご奉仕

ら流れ出るようになるのだということ自身自身が体験しました。「向こう岸へ渡ろう」

の賛美も、中国語の翻訳をパワーポイントで出して歌いましたが、台湾の参加者から励まされたと言を聞いて、賛美は国境を超えて人々を潤していくのだと励まされました。

昨年アシラム50周年で来日していた、花蓮の原住民のメンバーとも仲良くなり、また台南の教会の王牧師も、僕らのミニライブが心に感動があったと話してくれて、来年は彼らの教会にも歌いに行ければと思っています。

日本人の八田與一さんが戦前に作ったダムも近くにあり、今はこの貯水所によって、台南の農業の発展に多大な貢献をしたことを知りました。

僕も日本人クリスチャンとして、彼のよ

うに台湾を潤していく存在になれたら嬉しいと、最終日の証の時分かち合いました。

台湾アシラムが終わり、阿里山に移動して、台湾原住民の鄒(チョウ)族の村で一泊しました。彼らの文化や信仰に触れて、餅つき大会、夜はおもてなしを受けて、僕らも賛美して過ごすことができました。

この日(3月4日)は私たちの結婚記念日で、思い出に残る特別な一日となりました。最終日には原住民の教会もたくさん訪問し、祝福を祈り賛美して帰ってきました。

台湾原住民には、井上伊之助という日本人の宣教師が伝道していたり、現在は多くの原住民がクリスチャンになっており、そのリバイバルの祝福を味わってくる事ができました。

「また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。」ヨハネの黙示録14章6節

(ゴスペルデュオライオンロック)(カンパード長老クリス教会高座教会) しみじみする会

第42回ブラジル・アライアンス教会アシラム

福浦 朝恵 さん

毎年カーニバルの時期、2泊3日で教会アシラムを行っています。今年も天候に恵まれ、2026年2月15〜17日、サンパウロ・エンブ

〔訂正のお願い〕 4月号4P ♪みもとに♪ (誤)藤井喜代枝姉 ↓ (正)藤本喜代枝姉

市、聖パウロの家で、感謝な2泊3日となりました。

主題(テーマ)Iペテロ1・15「ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい」ゲストは榎本恵先生。静聴聖書箇所はIペテロ1、2、3章、参加者は117名(12歳以下13名)家族分けは14組(1組6、7名、日本語部10名)



→日系人一世の方々と共に(筆者後列右から2番目)



昨年、喜代枝姉より誕生日カード感謝のおハガキを頂きました。…金沢のアシラムを待っています。…祈りつつ。シヤローム(感謝)

42年前に10人そこそこで始まった教会アシラムは、日本語だけでした。今回も日本語部は10人、天国に帰られた方、病気のため出席できない方で、ともかく10人1組になってしまいました。117名の内10名、10%に逆言えば、ポルトガル語を話す2世、3世、4世と教会の若者に、確実に継承されているという事でしょう。

感じ、特に目の具合が悪くなり、視力も衰え不自由さを感じていました。Iペテロ1章24節「人はみな草のように生き生きと咲いていたけれど、人は皆、体力的にも、精神的にも衰えて行く、特に草のように目が着く、そんな中にあるように感じていた。25節「しかし、主の言葉は永遠に変わることはない。これこそが、あなた方に福音として、告げ知らされた言葉なのです。」とあります。



→大家族、親戚揃ってカーニバルではなく、アシラムに!



4月のカフェいろいろは聖書入門講座。恵師沖繩の為、アベルモン宣教師、光太兄、佐々木春代姉(通訳兼)が、ご奉仕くださった。



浅田牧師ご夫妻、田添牧師ご夫妻、シメオン泊。早天祈禱会、朝食を共に。(るつこ姉友)



←アンナ折りの家、庭にて。春のランチ会を終えホットと一息。大山謙一シエフと。

お詫び申し上げます。



人は目に映るものと見ることが、心によって見る。アシュラム上二六・七三〇三二、五・四(火)まじりの日 櫻本和子

中止、又はオンラインに変更もあり。ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり!

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

5月の聖書教室など

2(土)	加古川祈りの家(フリーメソジスト加古川教会 PM1:00)
11(月)	福岡聖書教室(福岡中部教会 PM1:30)
19(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)
20(水)	みんなのカフェいちろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)
22(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)
24(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝(PM5:00)
25(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
26(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
26(火)	しみじみする会(桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
6/5(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)

5月のアシュラムなど

4(月) 5(火)	第6回 ユースリトリートアシュラム 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師 アシュラムセンター
8(金) 10(日)	修道場アシュラム 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師 アシュラムセンター
31(日)	日本アライアンス呉教会アシュラム 0823-21-8571 奉仕者 櫻本 恵師 日本アライアンス呉教会

6月のアシュラム予定

6(土)	第30回 三重一日アシュラム 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師 アシュラムセンター
18(木) 21(日)	沖繩巡礼の旅・慰霊祭 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師・櫻本 空 アシュラムセンター

7月以降のアシュラム予定

7/20(月・祝)	第29回 福岡一日アシュラム
8/19(水)~20(木)	第2回 子どもアシュラム
9/11(金)~12(土)	第49回 新潟アシュラム
9/20(日)~21(月・祝)	第57回 九州アシュラム(アシュラム連盟)
9/22(火)	第33回 岐阜アシュラム
9/24(木)~25(金)	第14回 日光オーリーブの里アシュラム
9/26(土)	第52回 南町田一日アシュラム
10/5(月)	第50回 山陰アシュラム
10/12(月)~14(水)	第51回 加太アシュラム
10/31(土)	第7回 水戸バプテスト教会アシュラム
11/2(月)	第51回 京浜アシュラム
11/28(土)	第7回 四国一日アシュラム

献金のお願い

創立50周年のため祈りお献げ下さった皆様、感謝致します。引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。
アシュラムセンター運営
記号番号 01050-6-53772



みことば



ワハス・草の中

京都大学名誉教授
アシュラムセンター研修員
河崎靖

スタンリー・ジョーンズと
クリスチャンアシュラム運動②

宗教間の対話はいかにも難しいものである。例えば、ヒンズー教徒とムスリムとの間の争いも激しいものである。こうした状況で、ガンジーはヒンズー教徒でありながら、共存できる道を探り、よかれと思ってイスラム教に近づこうとした。しかしながら、この動きが結果的に、ヒンズー教関係者の一青年によるガンジー暗殺に至ったわけである。ガンジーは宗教に関し山登りの例えで示していた：「宗教は同じ真理に到達する別々の道である」(ヒンズー教もイスラム教も外見は違うが到達する山の頂は同じであるという趣旨)と。この着想に近いものがジョーンズの心の中にも芽生えた契機があったようである。それは、あるヒンズー教徒の裁判官(インド人)がジョーンズに何気なく「どうしてキリスト教徒はインドの高い教育を受けた高カースト層の人々に関心を示さないのか」と尋ねた瞬間であった。その時までキリスト教の布教は知らず知らずのうちにインドの低いカーストの人々を対象に行われていたため、その結果、インドのキリスト教徒はインドにいても異邦人のような扱いを受けるようになっていたのが実情であった。その裁判官(高カースト)はこう言ったという：

「正しい方法で教わるならば、私たちはあなた方(キリスト教徒)のことを知りたいと思う」

それまではキリスト教に改宗した人々は、インド文化から距離をおくように促されるような雰囲気があった。インドのキリスト教徒も自らの文化の中に留まるべきであるとジョーンズは確信しており、彼はキリスト教がインドに限らず世界のどの地にでも根付き得るものであると考えていた。

インドでジョーンズがこの確信に至る前提的な条件として、そもそも次の重要な点がジョーンズの前に立ちだかるのである。すなわち、キリスト教の特性のうち、本質的なものとそうでないものを見定めなければならないという課題である。インドでの経験からジョーンズは、キリスト教の飾りだとか西洋文明だとかいったものから解放されたキリスト像を提示しようと努めた。つまり、いかなる文化に属する、どんな人種であれ、あらゆる人間の必要に答えることができるような存在としてのキリストの提示である。



「早天祈禱会にて誕生者への祈り」お一人お一人が信仰を手渡された方々です。その手渡されたものを、次から次へと手渡していくことができますように。

歳22

4月9日 恵